

2023年度 第9回 三井のリハウス 東京都U-12サッカー 11ブロックリーグ

【リーグ戦の趣旨】

少年期における子供たちの健全なる心身の発達を願い、技術、戦術、マナー、
そしてサッカーのゲームを楽しみ、愛する心を育てる。

8人制の試合をすることにより、「判断」へのアプローチ場面を多くし、いろいろなポジションを
経験しながら個々の「技術」の質を高める。育成をめざし、多くの選手に試合経験を与えることとする。

- * 主催 公益財団法人 東京都サッカー協会
- * 主管 東京都少年サッカー連盟
- * 協賛 三井不動産リアルティ株式会社

【11ブロックリーグ大会要項細則】

1、開催日

前期リーグ戦は4月9日～6月25日までとし、後期リーグ戦は9月3日～12月24日終了目安とする。
東京都3部昇格リーグ推薦チームは12/末までに決定する。

2、会場

町田市・多摩市・稲城市それぞれとブロックリーグ参加チームの提供会場にて開催する。

3、参加資格

- a, 2023・東京都少年サッカー連盟大会要項「中央大会・ブロック大会共通事項」に準じる。
- b, 参加チームは大会実施年度に日本サッカー協会(以下本協会)第4種に加盟したチームであること。(準加盟チームを含む)
参加チームは、小学校6年生主体で構成された単一加盟チームに限られ、その加盟チームは年間を通じて継続的に活動していること。なお6年生がおらず5年生以下だけでの選手編成も認めるが、健康・体格・体力・技能等を十分に考慮しチームの責任において出場させること。
- c, 所属選手は「登録用紙兼メンバー表」に必要事項を記載し、顔写真のある選手証一覧と共にブロック委員長に提出して承認を受けなければならない。移籍等の追加選手は新たに登録用紙に追記して再度承認を受けなければならない。
- d, 所属選手はJFAの選手証を有し試合に持参すること。(顔写真のある個別もしくは一覧の、印字された選手証が必要)
※追加選手をJFAにweb登録申請して承認されたら顔写真を登録した選手証で出場登録できる。(支払い後は後日指示)
- e, グラウンド提供から会場運営など、リーグ戦運営に協力できるチームであること。
例として、第2試合までのチームが会場作りを担当し、最後の2試合までのチームが後片付けを担当する事を原則とするが、それ以外のチームも積極的に準備や後片付けを手伝う事。会場によりバケツ持参等を要請する場合有り。
- f, 複数チーム参加は6年生が20人以上登録されており、2チーム(A,Bチーム)ともに6年生だけで構成し、下級生の登録をすることはできない。ただし運営上においてブロックより要請された場合はその限りではない。
引率指導者は複数チームを兼務できない。ただし運営上ブロックより要請された場合は兼務できる。
複数チームの代表者はいずれにおいても兼務できる。
複数チームによるチーム内での組み換えは、前期リーグ戦終了の6/26から後期リーグが始まる前までに完了すること。
7/6までに組み換えを完了していたら、組み換え後のメンバーで全日本U12選手権に出場することが出来る。
ただし、ブロックの要請で複数エントリーしたチームは、全日本U12に1チームにして出場することが出来る。
- g, 移籍については2023年度連盟大会要項『移籍規定』に準じる。
ブロック委員長の承認があればいつでも期間中に移籍することが出来る。移籍先では前後期関わらずいつでも試合に参加することが出来る。また、**6/25までに移籍登録が完了**していれば、**全日本U12選手権に出場**することが出来る。
但し、規律フェアプレー委員会が不当と判断した場合移籍を認めず、チームに懲罰を科す。

4、引率指導者及び登録用紙 2023・東京都少年連盟大会要項「参加資格について」に準じる。

- a, 本協会公認指導者資格D級以上を有する2名以上5名以下の指導者が引率(ベンチ入り)出来ることが必須であるが、指導者講習会が頻繁に開催出来ない今期も、最低1名の有資格者がいれば、残り4名以下は「指導者資格取得予定者」としてのベンチ入りを認める。「指導者資格取得予定者」は指導者資格取得講習会が開催されたら受講を申込みことが前提。
3人目～5人目の内1名は指導者資格を有しないメディカルスタッフとしてベンチ入り可能。
- b, 指導者資格を有していたら【指導者証】を、指導者資格のないベンチスタッフは予めJFAIDを取得し別途定めた【JFAID証】を作成し、メディカルスタッフも別途定めた【メディカル証】を作成して、それぞれ首掛け式カードホルダーに入れて会場では常時掲示しなければならない。指導者資格保持者は指導者証を掲示してベンチ入りしなければならず、

メディカルスタッフとしてベンチ入りはしない。

- c, ベンチ入り指導者は試合の都度の登録用紙兼メンバー表に、氏名・指導者証番号・責任順位を記載するが、指導者資格取得予定者は指導者証番号の代わりに『JFA ID』を記載する。JFA IDの取得は必須とする。メディカルは番号不要。
- d, 登録用紙兼メンバー表は、前以て登録選手情報が記載されブロック委員長が承認印を押印して返送されたものを、開催日の都度印刷して使用しなければならない。申請時に記載済みのチーム名・代表者・連絡者の情報と選手の学年・氏名及び選手証番号以外は、当日手書き記載でも可。
移籍などで登録の追加や消去があった場合は、その都度登録用紙兼メンバー表を更新し委員長に申請して承認を受ける。
- e, リハウスリーグの場合、移籍はいつでも可能で、承認が下りたら移籍先のチームで出場可能だが、全日本U12に出場するためには、リハウス前期終了の6月25日までに移籍を完了していなければならない。
- f, 登録用紙兼メンバー表の指導者の氏名の左の欄に、その試合のベンチ入り全指導者の責任上位順に①②③④⑤を記載する。
メディカルスタッフがいる場合、その氏名の左の欄には「○」のみで良い。
また、主審が判別しやすいように、ベンチの一番センター寄りには責任上位①位のスタッフが座る。
- g, チーム責任者は自チームの最初の試合の30分前までに、登録用紙兼メンバー表の既に承認済の選手名と選手証番号以外の必要事項と、累積の有った選手の累積欄に「✓」または「1」を記載し、顔写真入りの選手証一覧とスタッフのIDと共に当日の本部運営担当に提出し確認を受ける。後から参加するスタッフがいらない場合、2試合目前のチェックではそれぞれIDの提出は不要でメンバー表のみで良い。試合後は懲戒罰を受けた選手の懲戒欄に懲戒名を記載し提出する。
- h, 「登録用紙兼メンバー表」の【移籍】欄には、移籍元のチーム名と移籍完了日を記載する。移籍や新規登録選手は発生の度ごとに「登録用紙兼メンバー表」を記載し直して再申請し承認を受ける。
- i, 試合開始から終了まで、メンバー表記載でIDを掲示した2名以上のチームスタッフがベンチにいないといけないが、例外として負傷者や前後の試合の審判対応でスタッフが退席の間、ベンチスタッフが1名になったり、指導資格保持者が不在になる事は認められる。
- j, テクニカルエリアを設けないので戦術指示する場合は、立つ立たないに関わらずその都度1名のみ、その場で指示することが出来るが、ベンチから離れたら指示することは出来ず、警告の対象になる。
- k, メディカルスタッフは戦術的指示はできない。指示が発覚した場合は警告や退場の対象となるが、メディカルスタッフが警告2枚や退場となる反則を犯しても、他に競技者の治療等に対応出来る者がいない場合、試合に留まることが出来る。
- l, ベンチスタッフの不正行為の発覚で審判がスタッフ個人を特定できなかった場合は、登録用紙兼メンバー表に記載された『責任順位番号』の最上位のスタッフに警告もしくは退場が命じられる。
- m, ベンチスタッフの代表者は試合終了後主審が記載した「結果報告書」の内容（得点、懲戒の有無）を確認し、記載内容に間違いが無い場合のみ、所定の欄に署名する。

5、感染症対応などの期間限定特別ルールを設けた場合

- a, 感染症対応などの特別ルールが施行される期間は、本大会要項より特別ルールが優先される。
- b, 熱中症対策は従来通りWBGT計の指数を目安に対応する。感染症対応などの特別ルールと相反する場面が出た場合は、より生命への危険度の高い熱中症対策を優先とする。
- c, 暴風雨や雷などの場面も同様に生命を守る対応を優先とする。

6、競技会規定

①、競技会規則

- a, 日本協会2022/2023競技規則を基本とする最新のルールを適用する。
- b, 「8人制サッカー競技規則」の最新版に準じる。但し「東京都少年連盟大会要項」および「本大会要項細則」が優先する。

②、競技のフィールド

- a フィールドの表面は天然芝、人工芝が望ましいが、クレーでも可（ライン表示はマーカーの使用可）
- b フィールドの長さ(タッチライン)は68m、幅(ゴールライン)は50mを基本とし、照度が十分に確保されていること。
交代ゾーンとしてベンチ側タッチライン中央から両側に3mのマーク(タッチラインから5cm離して30cmの線)を設ける。
- c ペナルティ-エリア等・・・・・・ペナルティ-エリア12m、ゴールライン～ペナルティ-マ-ク8m、ゴールエリア4m、
ペナルティ-アークの半径7m、センターサークルの半径7m、コーナーアーク1m。
- d テクニカルエリアは設置しない。戦術指示はその都度ベンチのただ1名の指導者のみが行える。その場で立つことは可。
- e ハーフタイム時のフィールドでは、次の試合のチームの練習のための利用を認める。

③、ボール

- a 両チームは各1個ずつ0.8気圧にした4号公認検定球を、当該試合開始10分前の用具チェック時までに本部運営に持寄る。
- b 主審は、0.8気圧を基本として、そのボールにおいて適切な値とする。（主審判断）

④、試合形式

- a, 試合は全て 8 人制(内1人がGK)で、9 チーム以上のグループ分けで、各グループそれぞれ1回戦総当たりのリーグ戦で行う。
- b, 登録選手全員がベンチ入りできる。また全員が出場できるようにチームで配慮する。
- c, 40分(20-5-20)の試合は原則土曜と日曜で最大 2 試合までとする。(土曜 1 試合・日曜 1 試合または土曜か日曜に 2 試合)
- d, 3 連休の扱いは(1試合・0試合・2試合)または(2試合・0試合・1試合)の 3 試合は可、連続する2日間で3試合は不可。
- e, 熱中症対策などで試合時間を短く(15分ハーフ)することにより、土・日の 2 日間で 3 試合まで認めるが、1日で3試合は不可とする。どちらにおいても、延長戦やPK戦は行わない。
- f, 試合は全てリーグ戦とし、前期リーグ戦の順位は「全日本U12選手権大会」の組合せに反映され、後期リーグ戦のグループ分けに反映される。後期リーグ戦の順位は次年度の前期リーグ戦のグループ分けに反映される。
- g, 後期リーグ戦の1部リーグの1位またはそれに準ずる成績でブロック委員長より推薦されたチームは、東京都リーグ昇格戦に出場できる。昇格戦は、次年度の学年(現5年生以下)が対戦する。
- h, リーグ戦における順位の決定方法
勝利 3 点、引分 1 点、敗戦 0 点、不戦敗-1点の勝点により、勝点の多い順に決定する。なお勝点の合計が同一の場合は以下の項目に従い順位を決定する。
 - ① 全試合の得失点差(総得点-総失点)
 - ② 全試合の総得点
 - ③ 当該チーム同士の対戦成績(勝敗)
 - ④ ①~③の全項目において 2 チームもしくは 3 チームが同一の場合は、抽選により順位を決める。
- i, 競技時間は 4 0 分とするが、荒天等により大会日程が不足した場合、3 0 分で行う事もある。
インターバルは5分、アディショナルタイム表示はしない。
- j, 飲水タイム(1分間を超えてはならない)やクーリングブレイク(90秒間から3分間内)を設けた場合にはアディショナルタイムとして扱う。
- k, GKを除き自由な交代ではあるが、飲水タイムやクーリングブレイク時を含め、常に審判の管理下にて行う事。

⑥、競技者 事前に必ずブロック委員長の承認を受け、承認印が押印されたメンバー表を使用すること。

- a, 本リーグ戦開催前に登録用紙兼メンバー表に学年・氏名・選手証番号を記載し、電子選手証一覧を添えてブロック委員長に Excelで提出し、確認を受けたしるしとして委員長の承認印を押印されてpdfにて返送された登録用紙に記載され、試合前に用具チェックを受けた選手のみがベンチ入り含め試合に参加できる。登録人数に制限はない。
ベンチ入り人数にも制限はないが、出場停止中や用具の不備の選手が応援の為にベンチ入りすることは出来ない。
- b, 選手の追加登録や削除の都度、登録用紙兼メンバー表を修正して再度選手証一覧と共に申請して承認を受けること。
リハウスリーグの場合、移籍選手は承認を得たら開催中であっても移籍先チームで出場出来るが、全日本U12選手権に出場するためには、2023年6月25日までに移籍が完了していなければならない。
webでJFA登録申請し承認後選手証が発行され顔写真を登録したら、ブロックに追加申請できる。登録費は後日支払う。
- c, フィールドプレーヤー(FP)は交代ゾーンから自由な交代とする。ゴールキーパー(GK)の交代は主審に通知して試合の停止中に行う。交代で退くGKが一番近いタッチラインかゴールラインから出なければならない。交代で入場するGKは交代ゾーンから入らなければならない。交代要員はユニフォームと異なる色(ビブス等)を着用する。
- d, 飲水タイムやクーリングブレイクでの交代は、ハーフタイム時も含めて審判が確認できる状態で行わなければならない。
- e, 一方のチームが 8 人に満たない場合は試合を開始しない。試合が開催出来なかった場合、8 人に満たないチームの放棄試合として不戦敗扱いとする。不戦勝は得点が 3、勝点 3 となり、不戦敗は得点 0、勝点マイナス 1 となる。
- f, 試合進行中および終了時、フィールド上に 6 人未満の場合試合は不成立(6 人未満のチームの放棄試合)となる。なお、主審の許可を得て、用具を正すまたは負傷の処置で一時的に 6 人未満の場合はその限りではない。本項は、早期復帰することが条件となる。復帰の見通しがたない場合は主審の判断で競技を終結させる。放棄試合は放棄したチームの不戦敗となり、④-hと同様の得点・勝点、もしくは終結時点での得失点差の大きい方を採用する。
- g, 競技者が退場を命じられた場合、その競技者のチームは交代要員の中から競技者を補充する。主審は補充が完了するまで競技を再開しない。退場者はベンチに戻れず各会場において指定された場所(管理区域やその外側)へ移動する。
- h, 退場処分(1試合の中での警告2枚を含む)及び累積警告 **3 枚**となった選手は、次の試合には自動的にベンチ入り含めて出場できない。内容によっては規律委員会で追加処分を与える場合がある。
- i, 選手は自チーム最初の試合の30分前には、承認された登録用紙兼メンバー表と共に、webより印刷された選手証を提出し、試合の都度10分前には氏名と用具を、それぞれ運営本部や審判のチェックを受けなければならない。(時間厳守)
後から参加する選手がいない場合は 2 試合目は選手証の提出は不要でメンバー表のみで良い。
- j, 選手は必ず傷害保険(スポーツ安全傷害保険)に加入していること。

⑦、競技者の用具（ユニフォーム） **規定への抵触の有無等の確認がある場合は大会前に役員へ照会する。**

- a, 基本的に日本サッカー協会「ユニフォーム規定」に則るが、11ブロック独自の緩和条項もある。
 - ※チーム名やチームを示すエンブレムをシャツの前面に表示する。（背面は任意）
 - ※交代要員はユニフォームと異なる色（ピブス等）を着用する。
- b, 選手番号は規定（背面：縦25cm-35cm、前面：縦10cm-15cm）サイズを適宜縮小することができる。
- c, 番号表示はシャツの背面及び前面に必須とする。ショーツには表示を推奨する。
 - ユニフォームは正・副（同じ番号）持参し、試合ごとに固有の番号とする。（11ブロックローカル）
 - 胸番号と背番号は正しく固定されて明確に表示されなければならない。
- d, ユニフォームのメーカーロゴの違い、モデルチェンジによる微妙なデザイン変化、ソックスのライン数など購入時期の違いでの微妙な色の違いなどの細部には言及しない。
- e, 試合には必ずF Pの正副とG Kの正副を持参し、用具チェック前に対戦相手と相談の上着用するユニフォームを決める。
 - 相談が纏まらなかった場合は審判または本部によるコイントスで正副を決める。
- f, ゴールキーパー（GK）のユニフォームにおいて、ショーツとソックスはフィールドプレーヤーと同じものでも構わない。
- g, GKの予期せぬ事態（ケガ・退場等で戦術的理由ではなく、控えのGKもいない場合）で、FPがGKに交代する際のユニフォームは、他のプレーヤーと区別するために試合で使用していない正副いずれかのシャツで本人の番号であれば着用可能だが、それが難しい場合、番号無しの安全なジャージやTシャツを着用して続ける事が出来る。その場合においてもピブスは不可で、ゴールキーパーユニフォームの着回しは出来ない。
- h, 2人のゴールキーパーユニフォームのH&Aは同じデザインが基本だが、メーカーのモデルチェンジなどでの多少の違いは問わない。また、3人目からのG Kのユニフォームは前の2人と異なるデザイン・色彩でも良いが、シャツ・ショーツ・ソックスはH&Aを揃え且つF Pと区別できる色とし、本人固有の番号が表示されていなければならない。
- i, ソックステープ等外部に着用する際、ソックスと同じ色でなくてもよくチーム内で統一する必要はないが、アンダーシャツアンダーショーツ並びにタイツの場合、色は問わないがチーム内で統一とする。GKのアンダーシャツ・アンダーショーツはFPと同じでも良いが、2人目のGKと同じとする。
- j, リバーシブル仕様のユニフォームは規定に準じ且つ健康や衛生面が保たれていれば着用を可とする。

⑨、審判 **競技規則の変更点を確認し、新ルールを理解して実践できる審判員であること。**

- a, リーグ1部の対戦では、1人の主審と2人の副審、及び1人の第4の審判で運営される。
 - リーグ2部3部(A&B)の試合では、1人の主審と1人の補助審で運営される。
- b, チームに割り当てられる審判任務への対応として、有資格で経験のある審判員をチームに帯同させなければならない。
- c, 帯同審判員は本大会に参加している他チームと掛け持ちで帯同審判員となることは不可とする。
- d, 審判員は必要に応じ審判を行う前に審判資格証(アプリ画面可)を本部運営に提示し確認を受ける。
- e, 審判員は「専用に販売されている審判服」の着用を必須とする(黒ハーフパンツ等ではNG)。ベンチ入り指導者が審判を行う場合、ベンチにいる際は審判服を着替えるか上着を着用する。
- f, 審判員はワッペン・笛・トスコイン・時計・懲戒カード・記録用紙&ペンを揃えて審判を行う。(グリーンカードは推奨する)
- g, 審判員は割り当てられた試合の10分前の用具チェック時に合わせて指定の場所に集合し、メンバー表を基に両チームの参加選手の選手番号や氏名を確認し用具のチェックを行う。
 - 自チームの試合の前後に審判任務を割り当てられ、その審判員が自チームの試合のベンチ入り指導者2名に含まれる場合用具チェック時にベンチ入り1名になる事は可とする。審判員が唯一の指導者資格者でベンチが資格者不在でも可。
- h, 主審は担当試合の終了後、速やかにコート本部と記録を整合の上「結果報告書」に得点と懲戒の有無を記載し署名する。
 - 両チーム代表者は結果報告書の内容に同意したらそれぞれの署名欄に署名する。
- i, 主審は「結果報告書」に記載署名した後に「審判報告書」を作成し運営に提出する。この時の審判員が次試合のベンチ入り指導者2名の内の1名の場合、報告書作成が済むまで次試合のベンチ指導者が資格保持者ではない1名でも可とする。
- j, 競技者に退場を命じてチームが交代要員から競技者を補充している間、主審は試合を再開させない。
- k, メディカルスタッフのコーチングを確認(補助審判の報告も含む)した場合、主審はそのメディカルスタッフに警告する。
 - 繰り返す場合はメディカルスタッフに退場を命ずることが出来るが、警告2枚や退場となる反則を犯したメディカルスタッフは、チームで他に対応ができる医療担当が不在で競技者に必要と判断されたら試合には留まることが出来る。
- l, ベンチ入りスタッフの不正行為に対してイエローカードやレッドカードを示すことが出来るが、不正を働いた者が特定できない場合は、登録表兼メンバー表の指導者名の横に記載されている責任順位番号の最上位の指導者に、警告や退場を示すことになるため、主審は前以てベンチ入りスタッフの最上位が誰かを確認しておく。
- m, 審判員はチームや運営や観戦者などが不誠実な言動を行ったと認識した場合は、その場のブロック役員や審判部員に伝え、対応を相談する。その内容と結果は審判報告書もしくは『その他報告書』に記載して委員長や競技部に報告する。
- n, 大会の競技運営を円滑に進めるため、町田・多摩・稲城の各市選出の11ブロック審判部員が各試合会場に配置され、試合における疑義や問題ごとに対してアドバイスを送り対応をサポートする。審判部員は11ブロック審判部所属とする。**

⑩、大会前の準備

- a, 大会前の定められた期日までに『登録用紙兼メンバー表』に、所定のチーム情報と大会参加の全登録選手及び選手証番号を記載し、登録選手全員分の顔写真添付の『web選手証一覧』と共に11ブロック委員長にメール添付にて申請する。
- b, 委員長から確認の☑マークと承認印を押印し添付返送されたpdfの登録用紙兼メンバー表を試合日の都度印刷してメンバー表として使用すること。申請の際複数エントリーチームは、それぞれのチームに兼任しない1人以上の有資格指導者を予め記載し同時に承認を受ける。代表者は複数チームに兼務できるが指導者は兼任できない。

⑪、試合前～試合後 30分前と10分前は時間厳守のこと

- a, 第1試合の両チームは、提供チームもしくは提供市のチームの指導の下グラウンド準備を行う。
最終試合の両チームは、提供チームもしくは提供市のチームの指導の下で後片付けやグラウンド整備を行う。
- b, チームの最初の試合開始30分前までに、承認印押印でブロック委員長よりpdfで返送された登録用紙兼メンバー表の指導者の部分に、当日ベンチ入り指導者の指導者証番号・氏名・資格級と、氏名左の欄に責任能力上位の順に番号①②③④⑤（メディカルスタッフは「○」のみで良い）を記載し、当日不参加の選手名を横線で消して、webから印字した選手証（電子選手証もしくは電子選手証一覧、顔写真必須）とベンチ入りの指導者全員の指導者資格証や11ブロック専用のJFA ID記載の指導者証を、首掛け式の透明カードケースに入れて提出し確認を受ける。
メディカルスタッフがいる場合はメディカル証も提出する。
- c, 試合開始10分前（必須）までに両チームが0.8気圧の試合球1個ずつを持参し、参加選手全員が本部運営の指示する場所（主に本部横）に集合して、ボール・選手氏名・背番号・用具のチェックを受ける。
- d, 競技者は用具チェック後はその場から離れることは出来ない。離れた場合再度用具チェックを行う。
- e, 試合終了後両チームの代表者は、主審が記載した結果報告書に署名する。チームの当日全試合終了後はその日の登録用紙兼メンバー表は本部運営が回収する。

⑫、運営担当 ベンチ入り指導者の氏名・級・責任順位の確認 責任順位最上位は主審に伝える。

- a, 運営は2チーム1名ずつで行う。運営担当は空気圧計と空気入れを持参し審判のチェックを補佐や代替えする。
- b, 運営担当は気温の高い日にはWBGT計を持参し会場の所定の位置に設置したうえで、KO時とHT時の数値を結果報告書の所定欄に記載し、危険な数値になったら審判と本部役員や審判部に伝える。
- c, 対戦表運営欄で第1試合の左側に記載されていたチームの運営担当者は、当日そのコートで行われる全試合分の結果報告書と審判報告書及び懲戒台帳とその他報告書を持参する。
- d, 運営担当者は試合中ベンチ指導者の不正行為を発見し個人を特定できたら、補助審判を通して主審に伝える。
個人が特定できなかった場合ベンチ内の責任順位最上位者が懲戒を受けることになるので、登録用紙兼メンバー表に記載の責任順位を主審に伝える。
- e, 試合中審判や運営本部で判断できない事由が生じた場合は、その場にいる11ブロックの役員や審判部員の判断を仰ぐか、ブロック委員長に連絡を取り相談する。役員不在や委員長と連絡が取れない場合は予定通り試合を続けるが「ブロック委員長預かり試合」とし結果報告書に両チームの署名は不要。判断が出たら委員長が両チームから署名を受領する。
- f, 対戦表運営欄で最終試合右側の運営担当は、当日の試合を終了した全チームの登録用紙兼メンバー表を回収し、グループ幹事もしくは競技部へ渡す。
- g, 報告内容は当日全ての試合の「結果報告書」と、懲戒のあった試合の「審判報告書」及び記載があった場合の「重要事項報告書」に懲戒チームのメンバー表。また記載のあった場合の「その他報告書」をpdfもしくは鮮明な写メ（必ず鮮明）で、幹事チームと結果報告書の最上部に記載のメールアドレス宛てに試合の当日速やかに配信する。もしくは手渡す。
- h, 懲戒のない「登録用紙兼メンバー表」と「審判報告書」は後日競技部へ提出するまで保管しておく。
懲戒のない「登録用紙兼メンバー表」と「審判報告書」は、求められた時以外は配信は不要。
- i, 運営担当者が試合中メディカルスタッフの戦術指示を確認した場合、速やかに補助審判を通して主審に伝える。
同様にベンチ指導者の、その都度1人のみの戦術指示が守られていなかったり、ベンチより前に進んでいるなど不正行為を発見したら補助審判に伝える。
- j, 運営担当者は、主審が試合終了後に得点と懲戒の有無を記載し署名した結果報告書の内容を、両チームの代表者と共に確認し、間違いが無ければチーム署名欄に両代表者の署名をもらう。
- k, 運営担当者は、選手・スタッフからの審判員のジャッジに対する疑問や、観客・指導者・審判員等の不誠実な言動などを認識した際、会場内の11ブロック役員・審判部に報告してその場で対応し、内容を『その他報告書』に記載して委員長か競技部へメール添付にて報告する。その場で対応が出来なかった場合も『その他報告書』に内容を記載して、委員長か競技部に配信する。委員長は役員会で内容を共有し関係者の聞き取りを基に対応を判断して展開する。
『その他報告書』は、問題定義として誰でも匿名でも記載し、メールでも役員に手渡しでも投稿できる。

⑬、警告・懲罰および再試合など

- a, リーグ期間中に累積で警告を**3回(リハウスの場合)**受けた選手やスタッフは、次の1試合は自動的に出場停止となる。
前期の累積は後期に継続する。後期リーグの終了時点で、累積警告は消滅するものとする。(次年度には繰り越さない)
- b, リーグ戦において退場を命じられた選手やスタッフは、その試合の以降の時間帯と次の1試合は自動的に出場出来ないが、内容によっては東京都少年連盟の規律フェアプレー委員会へ報告し、それ以上の追加懲罰が与えられる場合がある。
- c, 競技者が退場を命じられた場合、試合が再開する前にその競技者のチームは、交代要員の中から競技者を補充することができ、補充が完了するまでプレーは再開されない。
- d, 試合が一方または両方のチームの責任なき事由(天災・悪天候・高気温・施設側または大会運営事由など)により開催不能または途中で終結となった場合は「再試合」とする。再試合の日時・会場・審判員・出場選手は新たに設定できる。
- e, 大会本部および当該チーム合意のもと、やむを得ない事情により再試合が出来ない場合は、速やかに競技部とブロック委員長に報告し、委員長は役員を招集して委員長主導のもとで協議し、その後の処置を決定する。
- f, 試合が一方あるいは両方のチームの責任における事由(集合場所への遅刻、選手証や指導者証の不携帯、人数不足、差別的言動、暴力、破壊行為、公文書偽造、会場ルール違反など)により主審や本部役員によって開催不能または中止と判断された場合は下記の対応とする。
- A. 一方のチーム責任による、開催不能もしくは中止の場合
- ・そのチームの放棄試合として、不戦敗扱いとする。
 - ・不戦勝は得点3、勝点3となり、不戦敗は得点0、勝点マイナス1となる。
- B. 両方のチーム責任による、開催不能や中止の場合
- ・無効試合として原則『再試合』とする。
 - ・再試合の日時、試合会場、審判員、メンバー登録などは新たに設定する事が出来る。
- 但し、大会競技会本部及び当該チーム合意のもと、やむを得ない事情により再試合が不可能な場合は「引き分け」とし、両チームとも得点0、失点0、勝点0とする。
- なお、A,Bにおいて内容によっては懲罰が与えられる。また重大事由の場合はブロック委員長から東京都少年連盟に報告され少年連盟規律フェアプレー委員会によって懲罰が決定される。
- g, 試合中、ベンチやその周辺からの撮影は静止画も動画も不可で退場を命じられる場合もある。試合会場外(管理区域内)ではゴール裏やベンチ裏など試合に影響する場所からの撮影は不可で、本部が認めたその他の場所からの撮影は可とする。
- h, 試合会場運営本部で判断が出来ない事象のまま終了した「ブロック委員長預かり試合」は、後日委員長主導のブロック役員会や東京都少年連盟との相談の上判断して両チームへ伝えた承を求める。
- i, サッカーに対し敬意の無い行為(過激な応援・ヤジ・審判へのクレーム等々)を行ったチーム(選手・コーチ・応援含む)や、会場ルールを守らないチーム(選手・コーチ・保護者・その他のチーム関係来場者)などがあった場合、それらは「結果報告書」「審判報告書」「その他報告書」などにより委員長はじめブロック役員に報告され、基本的にはブロック委員長からの注意喚起などで対処するが、悪質な場合は東京都少年連盟に報告され懲罰の判断を仰ぐこととする。
- j, 本協会諸規程および本記載事項にない問題事例に関しては、東京都少年連盟へ報告して判断を促す。

【参考資料】

- サッカー競技規則 https://www.jfa.jp/laws/soccer/2022_23/
- 8人制サッカー競技規則 <https://www.jfa.jp/documents/pdf/eight/rules.pdf>
- 熱中症ガイドライン https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke_guideline.pdf